

# ループリック（書道実技）

授業科目〔 仮名書法Ⅰ（ 1年 前期 必修 ） 〕

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の基礎的な知識・技法を習得することができる。</li> <li>・墨の濃淡・潤渴に注目し、古筆の臨書を進めることができる。</li> <li>・全臨し、各自和綴じの冊子本に完成させ、提出することができる。</li> <li>・仮名の運筆法を理解した上で、その応用として扇面や半切1/2への拡大臨書をすることができる。</li> <li>・仮名の鑑賞眼を養い、自己・他者両方の作品について意見を持ち、的確な表現で伝えることができる。</li> </ul>
------	--

	内容 項目	レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1	
1	事前準備 (知識・理解)	古筆成立の経緯	法帖の解説を読み、それを理解した上で授業に臨んだ。	法帖の解説を読み、それを一定理解した上で授業に臨んだ。	法帖の解説を読み、授業に臨んだ。	法帖の解説を読まずに授業に臨んだ。
		字母への理解	平仮名・変体仮名の成り立ちについて理解している。	平仮名・変体仮名の成り立ちについて、一定理解している。	平仮名・変体仮名が漢字から成り立ったことは知っている。	平仮名・変体仮名の成り立ちについて知らない。
		可読への知識	変体仮名を理解し、学習箇所を読むことができた。	変体仮名を一定理解し、学習箇所をおおむね読むことができた。	平仮名と変体仮名の違いが分かった。	平仮名と変体仮名の違いが分からなかった。
2	制作 (知識・理解)	書風の特徴	よく書風を捉えて書くことができた。	一定書風を捉えて書くことができた。	努力したが、あまり書風を捉えることができなかった。	書風を捉えることができなかった。
		用筆法	よく再現できた。	一定再現できた。	努力したが、あまり再現できなかった。	再現できなかった。
		結構法	よく再現できた。	一定再現できた。	努力したが、あまり再現できなかった。	再現できなかった。
		連綿法	連綿法の種類とその効果を理解し、よく再現できた。	連綿法の種類を理解し、再現できた。	努力したが、あまり再現できなかった。	再現できなかった。
		用墨法	墨の付け方を理解し、潤渴を効果的に表現できた。	墨の付け方を理解し、一定潤渴を表現できた。	努力したが、あまり潤渴を表現できなかった。	潤渴を表現できなかった。
		用具・用材の工夫	自らが古筆を再現し易い用具・用材（筆・紙・墨の全て）を選んで実習できた。	自らが古筆を再現し易い用具・用材（筆・紙・墨の内2種）を選んで実習できた。	自らが古筆を再現し易い用具・用材（筆・紙・墨の内1種）を選んで実習できた。	古筆の再現にすぐわない用具・用材を使用した。
3	評価 (態度・志向性)	自己評価	客観的に自己評価でき、反省点を見つけ、改善することができる。	自己評価でき、反省点を見つけられるが、改善に苦労している。	自己評価でき、反省点を見つけられるが、改善できなかった。	自己評価できない。
		他者評価	他者の作品から、その善し悪しを判断し、的確に述べるができる。	他者の作品について何らかの意見は持てるが、的確に文章化・言語化することができない。	他者の作品と法帖を見比べることができる。	他者の作品について評価できない。